

## 中～高緯度の両極性分布を持つ生物から見た地球史

**趣旨:**大陸-海洋配置の明らかな中生代から現世にいたる海洋環境において、両極性分布(bipolarity, bipolar distribution)を示す生物群が知られており、珪藻・浮遊性有孔虫・放散虫やクラゲなどのプランクトン生物や軟体動物から大型海生ほ乳類にいたるまで異なるタクサ間で認められている。このような両極性分布の成立はどのような起源をもち、いつどこで、どのようにして発達してきたのかを解明することは、海洋環境と形態特性、種分化の過程、古生物地理、生物群の深度分布モデル、氷期・間氷期による生物群の拡散と分断、環境への形態学的収斂などの諸問題と密接に関連して中～高緯度の生物群の特性を理解する事に通じる。多数の成果が得られている低緯度生物群から見た地球史とは異なり、両半球の中～高緯度の視点から地球史を考察する。

本シンポジウムでは、現世の生物群において両極性分布がどのように成立するのか、また中生代-新生代の化石生物群において両極性分布について最新の知見を紹介する。両極性分布(bipolarity)をキーワードに中～高緯度の両極分布を持つ生物群(珪藻, 浮遊性カイアシ類, 浮遊性有孔虫, 放散虫, 海生ほ乳類, 首長竜, 貝類など)についてレビューをおこない、異なるタクサ間で共通する両極性分布のモデルは成立するのか、あるいは何が異なるかを総合討論する。

**世話人:**相田吉昭・酒井豊三郎(宇都宮大学)・鈴木紀毅(東北大学大学院・地圏環境科学)

**日時:**平成20年2月1日(金)13時～17時15分

**場所:**宇都宮大学 大学会館多目的ホール

**講演案** 1講演 30分(質疑応答を含む)／コメント(必要に応じて)

13:00-13:05 [趣旨説明] 相田吉昭・酒井豊三郎(宇都宮大学)・鈴木紀毅(東北大学大学院)

13:05-13:35 「新生代の珪藻からみた両極性分布の成立過程」 柳沢幸夫(産総研)

13:35-14:05 「浮遊性カイアシ類(甲殻類)から見た両極分布について」

大塚 攻(広島大学大学院・生物圏科学)・谷村 篤(三重大学大学院・生物資源学)

14:05-14:35 「浮遊性有孔虫の分子系統解析からみた両極性分布の成立過程」

土屋正史(JAMSTEC・IFREE)

14:35-14:45[休憩]

14:45-15:15 「中生代-新生代放散虫からみた両極性分布の成立」

相田吉昭・酒井豊三郎(宇都宮大学・農)・鈴木紀毅(東北大学大学院・地圏環境科学)

15:15-15:45 「海生ほ乳類からみた両極性分布-収斂による分布特性」甲能直樹(国立科学博物館)

15:45-16:15 「極域に生息する首長竜の形態学的特性」佐藤たまき(国立科学博物館)

16:15-16:45 「中生代-新生代貝類からみた両極性分布の成立」栗原 行人(国立科学博物館)

16:45-17:15 [総合討論]